

柏市健康福祉審議会 市立病院事業検討専門分科会

病院施設見学会 資料

- 1 現地の概要
- 2 現市立病院配置図
- 3 柏市立柏病院外観写真
- 4 「柏市立病院中期構想」からの抜粋記事

柏市 保健福祉部 医療公社管理課

平成28年7月19日（火）

現地の概要

(1) 場所

柏市布施1－3ほか

(2) 施設概要

敷地面積		41,200m ² (※)
延床面積		12,100m ²
建物(構造)		
	外来管理治療棟	地上2階建て(RC構造)
	病棟	地上4階建て(RC構造)
	サービス棟	平屋建て(RC構造)

(※)併設の介護老人保健施設の敷地を含む

(3) 地形

平地(一部高低差あり)

(4) 地権者

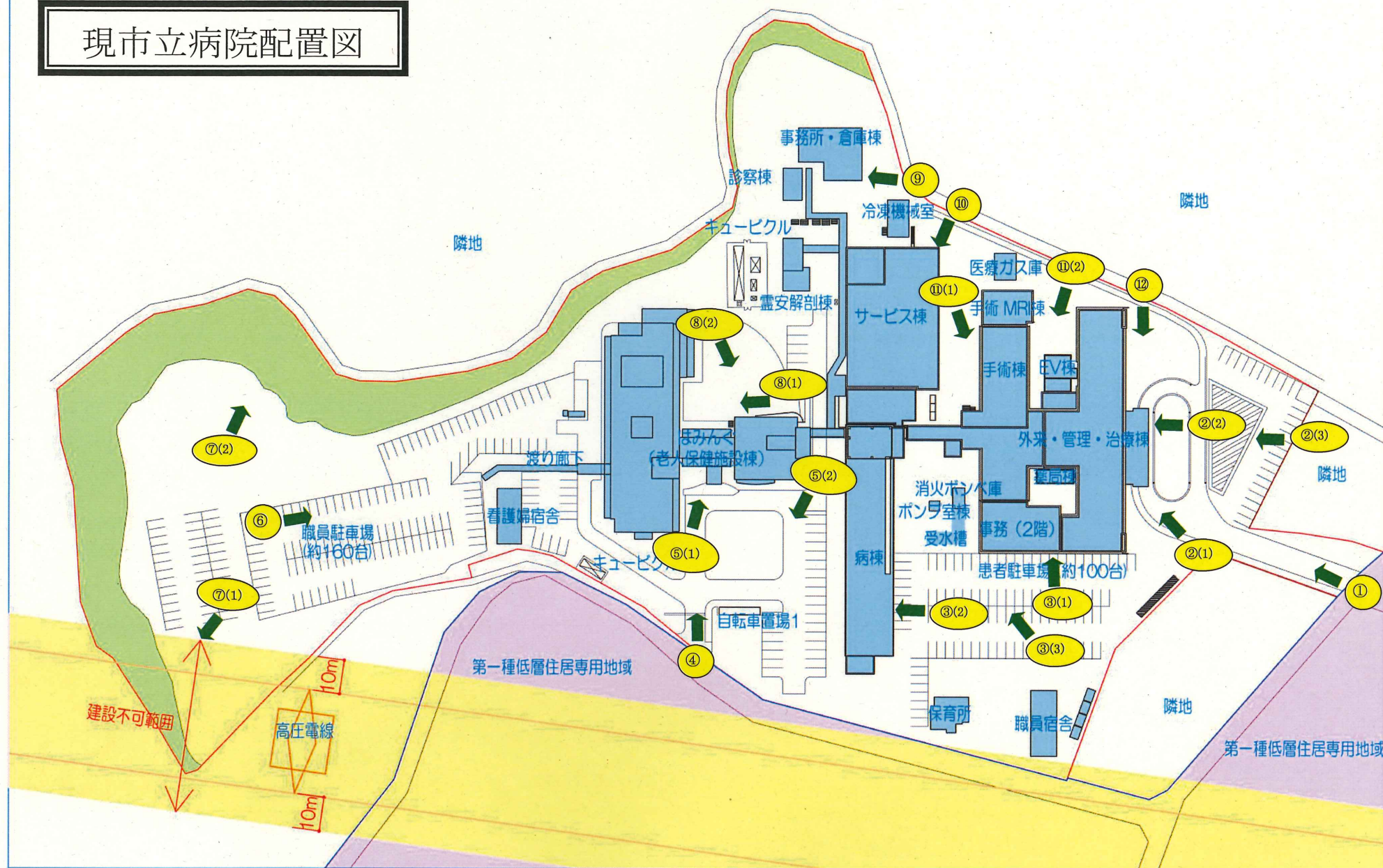
柏市

(5) 特記事項

- ・市街化調整区域
- ・同一敷地に介護老人保健施設あり



現市立病院配置図



○ 柏市立柏病院外観写真

① 敷地入口



② 病院入口 (1)



② 病院入口 (2)



② 病院入口 (3)



③ 西側駐車場 (1)



③ 西側駐車場 (2)



③ 西側駐車場(3)



④ はみんぐ入口



⑤ はみんぐ玄関前(1)



⑤ はみんぐ玄関前(2)



⑥ 北側駐車場



⑦ リハビリ広場(1)



⑦ リハビリ広場 (2)



⑧ はみんぐ中庭 (1)



⑧ はみんぐ中庭 (2)



⑨ 事務所・倉庫棟



⑩ サービス棟



⑪ 手術棟 (1)



⑪ 手術棟 (2)



⑫ 外来棟裏



(4) 施設の状況

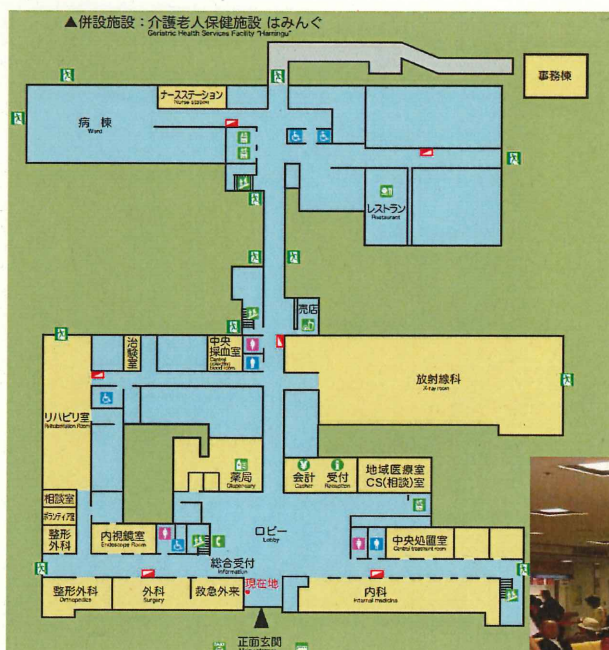
現在の病院施設は、昭和51年～53年の旧国立柏病院時代に建設された建物であり、当時と築30年以上を経過した現在では、医療水準、医療ニーズなどが大きく変化している。そのため、現在の医療水準と施設・設備（ハード）面での間にギャップが生じ、提供する医療サービスの質に少なからず影響を与えている状況がある。

施設・設備面の課題として主に以下の点が挙げられる。

1) 施設の狭隘化・老朽化

市立柏病院開院後、改修工事やレイアウト等を工夫しながら、医療機能と施設構造のギャップの最小化に努めつつ、診療を行ってきた。医療機能については、開院当時の4診療科100床から現在の15診療科200床まで強化してきたが、今日の医療ニーズの多様化、量的拡大の中で、施設の狭隘化が大きな課題となっている。また、近年は医療のIT化や医療機器の進歩は目覚ましく、新たな機器等の導入に施設が対応できない状況も生じている。診療スペースや患者の待合スペース等も狭く、このようなハード的な制約から、時代に即した良質な医療を効率的に提供し続けることが極めて難しい状況となっている。

加えて、築30年以上を経過した中で、24時間365日稼働し続けているため、施設の老朽化も著しく、療養環境としてのアメニティの低下や衛生面の課題も抱えている。その他、設備インフラ（電気、ガス、給水設備等）にも障害が発生するなど、大規模な設備更新の必要性も高まっている。



- ▶ 病棟と外来棟が細い渡り廊下によってつながっている古い構造。
- ▶ 病棟、外来ともに廊下が長く、患者及び職員の動線が長い構造。
- ▼ 狭いロビーや待合廊下。立って待つ患者も散見される状況。



2) 救急医療への対応

現在、救急診察室は1室1床であり、複数患者の受け入れや、2件続けての受け入れが困難な状況にある。一方、増室増床を図るスペースの確保も困難である。

また、救急搬入口が正面玄関脇にあり、救急車が2台以上乗り付けることができない状況である。加えて、院内の救急患者と一般患者の動線が交錯していたり、救急診療室と検査機能スペースが、階層で分断されているなど、動線や配置にも課題を抱えている。



- ▶ 救急搬入口が正面玄関と近く、患者プライバシーを保ち難い配置。
- ▶ 救急車も一台しか乗りつけられない。

3) 施設の耐震性の強化及び災害医療の提供

東日本大震災以降、医療施設の耐震性や災害時の医療サービスの確保に関する関心が高まっている。市立柏病院の耐震性は I_s 値 0.6 以上であり、倒壊又は崩壊する危険性は低いものの、病棟に関しては、国土交通省が示す官庁施設の安全性の目標値を満たしていない。

災害時において、継続的に医療を提供するためには、水や電気等の十分な確保・備蓄が必要となる。一方、現状では自家発電設備は設置されているものの、災害対応に十分な設備状態とは言い難い。また、災害発生時は、通常以上の患者（負傷者）の受け入れを求められる事態が想定される。市立柏病院は、前述の通り、施設が狭隘化しており、廊下も狭く、押し寄せる患者（負傷者）を受け入れるためのスペースが十分に確保できる状況とは言い難い。

図表 3 4 - 市立柏病院の各施設の概要、耐震性等

	延床面積	構造	階数	築年数	I_s 値
外来管理治療棟	5,426㎡	RC	2	昭和 51 年 11 月	0.92
病棟	4,323㎡	RC	4	昭和 53 年 3 月	0.66
サービス棟	998㎡	RC	1	昭和 53 年 3 月	1.66

図表35－耐震性の判定基準

Is 値が 0.6 以上	倒壊、又は崩壊する可能性が低い
Is 値が 0.3 以上 0.6 未満	倒壊、又は崩壊する可能性がある
Is 値が 0.3 未満	倒壊、又は崩壊する可能性が高い

【建築物の耐震改修の促進に関する法律より作成】

図表36－官庁施設に求められる耐震安全性（耐震安全性の分類）

施設の用途	対象施設	耐震安全性の 目標（構造体）	Is 値
被災者の救助、緊急医療活動等のための施設	病院関係機関のうち、災害時に拠点として機能すべき施設	I 類	0.90 以上
	上記以外の施設	II 類	0.75 以上

【国土交通省「官庁施設の総合耐震計画基準」より抜粋】



▶ 耐震補強工事を施しても、官庁施設安全基準には届かない病棟。